

オーラルヒストリーを活用したパブリックモニュメントの高専学生によるデザインの取組み ～徳島県阿波市おもてなし公園内に整備された三木武夫記念碑の制作～

阿南工業高等専門学校 正会員 ○多田 豊

1. 概要

第 66 代内閣総理大臣三木武夫生家跡地の公園（阿波市おもてなし公園）整備にあたり、地元住民等による記念碑設立の機運が高まり、記念碑製作委員会より 2019 年 6 月に本校に記念碑デザインの依頼があった。2020 年 3 月完成までの学生主体の取組みを報告する。

三木武夫については政治学分野にて三角大福中時代等の中央政治の視線からの多くの研究^{文 1,2,3}がある。また、既に阿波市内の公園及び博物館に三木武夫の立像、胸像があり、公的な偉業についてはパブリックモニュメントとして存在をしている。また、東京に三木武夫記念館があり、阿波市歴史資料館には特設展示がある。しかし三木武夫の人物像、幼少期や政治家となつてからの地域住民との関わり、生家のある地域社会の中で三木武夫がどのように認識されているのかは明らかではなく、地域の視点に立ったパブリックモニュメントを制作したいと考え、オーラルヒストリーの手法を援用しデザインのコンセプトを形成した。

2. オーラルヒストリー

2019 年 8 月 3 日、4 日に地域住民等 21 名（地域住民、親類、地元政治家、地元教育者等）へのオーラルヒストリーを行った（図 1, 2）。直接面会経験のある人物（70～80 歳代）らは「演説が上手だった」、「徳島の青年を大切にした」、「地元を大切にした」、「やさしい人」、「うどんが好き」等の人柄等に関わるオーラルヒストリーを収録できた。直接面会経験のない人物（40～60 歳代）らは「信なくば立たず」、「クリーンな政治家」、「地元へ利益誘導をしない」という政治的話題が中心であり、「子どもの時に遠くから拝見したが偉人であり面会等する機会はなかった」、「三木武夫のことを十分に知らないため、子や孫に話をしたことはない」、「親等から人物像等は聞いたことがない」等、三木武夫の人物像は地域の中で伝承されていないことが明らかになった。なお、調査時に地元の方が保存されていた首相就任時に地元配られた手拭（直筆の「人無信不立」の印刷あり、図 3）を見せて頂き、デザインに活用することとした。現地調査を行い生家跡に残された基礎石を活用することとした（図 4）。



図 1 オーラルヒストリー



図 2 分析の様子



図 3 直筆の印刷のある手拭



図 4 コンセプト検討

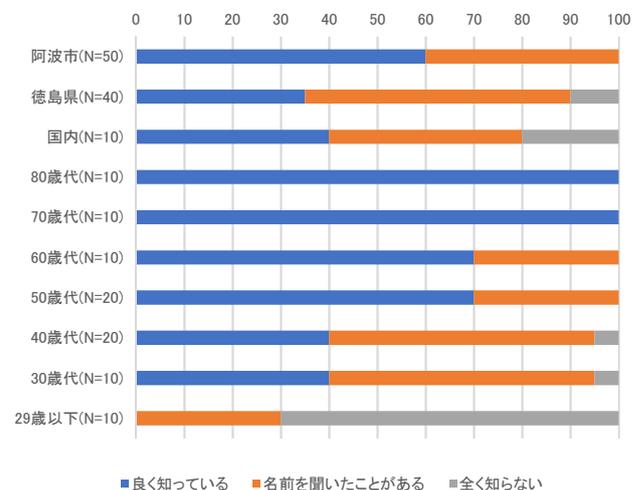


図 5 三木武夫の認知度アンケート結果

3. 認知度アンケート

2019 年 8 月 12 日～27 日（2 週間）に認知度に関する WEB アンケートを実施（有効回答 100 名）した（図 5）。認知度（良く知っている、名前だけ知っている）について回答者の所在地で分類をすると、出身地である阿波市では 100%、徳島県内でも 9 割と高い認知度があった。年齢別にみると 30 歳代を境に認知度が大きく分かれ、30 歳代以上は概ね 9 割以上が認知をしているのに対して 20 歳代以下の認知度は 3 割であった。よく知っているとの回答は年齢が下がる程に少なくなり、70 歳代以上では 100%であるが、50 歳代では約 7 割となり、30 歳代は約 4 割、20 歳代以下は 0%であった。県内での認知度はあるが世代間の差があることが分かった。

4. デザインコンセプト

オーラルヒストリー、認知度アンケートにより、地域住民であっても三木武夫の人物像までを知る人物は少なくなっており、また十分に伝承されていないことが分かった。そのため、記念碑製作のデザインコンセプトの一つを「三木武夫を知る地域住民が子どもたちに話すきっかけづくり」とし伝承の促進を図ることとした。また、伝承は偉業を学ぶ必要があり、公園が遍路道に隣接し外国人の歩き遍路等も多いことから、第2のデザインコンセプトとして「世界が学ぶ信なくば立たず」を掲げ、人同士の信頼関係の大切さという人類普遍の価値観を表現することとした。

5. デザイン案

デザイン案は第1回委員会（2019年8月30日、図6、7）に4案を提示し、そのうち有力であった案をより洗練させて第2回委員会（2019年10月9日、図8、9）に4案（図10、11、12）を提出した。決定案（図12）は石材を「人」の字に模り、座右の銘である「人無信不立」を掘り込み、サンドブラスト加工による顔像レリーフを埋込む案とした。後日、阿波市長への説明を行った（2019年10月16日、図13、14）。

6. まとめ

その後、施工用図面の作成及び竣工パースの作成（図15、16）を行い、記念碑製作委員会が寄付金の募集などを行った上で、業者への工事発注を行った。三木武夫の誕生日である2020年3月17日に完成記念式典が挙行政され、学生らに表彰を頂いた（図17、18）。

記念碑のデザインコンセプトの形成にあたり、地域住民へのオーラル・ヒストリーを行ったことは、結果的に人との対話を重要視しながら政治に携わった三木武夫に相応しい方法となった。また、当初より地域の視点に立ったパブリックモニュメントを制作したいとの思いも、地域の人々から慕われた三木武夫を顕彰するに相応しいものであったと考える。この度の「人」をモチーフとした記念碑をきっかけに、三木武夫を知る人たちから日本の未来を担う子どもたちへ三木武夫の思いが語り継承されることを期待します。

西川政善先生、樫原伸先生はじめ多くの方々に学生達の提案を育てて頂きました。地域にあるパブリックメモリーを公共物としてデザインするという貴重な経験をさせることが出来ました。感謝申し上げます。



図6 第1回委員会の様子



図7 第1回委員会提案一例



図8 第2回委員会の様子



図9 第2回委員会の様子



図10 第2回委員会提案



図11 第2回委員会提案次案

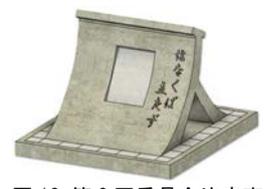


図12 第2回委員会決定案



図13 市長説明の様子



図14 市長説明の様子



図15 完成パース



図16 完成パース



図17 竣工写真



図18 式典の様子

【参考文献】

- 文1 岩野美代治, 竹内桂, 三木武夫秘書回顧録-三角大福中時代を語る, 吉田書店, 2017年11月
- 文2 小西徳應, 明治大学史資料センター, 三木武夫研究, 日本経済評論社, 2011年10月
- 文3 西川政善, 竹内桂, 島田健作, 回想&展望 1942~2025, 徳島県教育印刷, 2019年
- 文4 後藤春彦, 田口太郎, 佐久間康富, 早稲田大学後藤春彦研究室, まちづくりオーラル・ヒストリー-「役に立つ過去」を活かし、「懐かしい未来」を描く, 水曜社, 2005年4月